

第4回 小山市まちづくり総合交通戦略策定協議会

会議録

日時：平成27年3月19日（木） 15時00分～17時00分

場所：まちなか交流センターおやま〜る 研修室1

出席者：(委員)18名出席 (オブザーバー)4名出席

事務局：小山市都市整備部都市計画課

1. 開会

2. 挨拶(委員長)

今年度最後の協議会となる。本日は、一人2分程度で一巡して皆様からご意見をいただきたい。コメントを素案につけて市長に答申したい。

3. 議題

～事務局より資料説明～(「小山市まちづくり総合交通戦略(素案)」)

～意見～

(委員 A) 今後も総合的な見地から新交通システムの検討を進められればよい。お金の問題もあるが、住民の立場からやってほしいことを言っていく。まちづくりは住民が中心に進めていくものであり、住民の要望が一番大事なので尊重してほしい。

(委員 B) 行動しないとなにも変わらない。勇気をもって進めていけばよい結果が出る。やることに意義がある。これで終わりではなく、今後もつっこんだ話や行動を起こしていきたい。

(委員 C) 高岳引込線の目の前の公民館でトランスを眺めながら地域の会合を開いている。私の住む地区にはバスがメインストリートしか通っておらず、一日も早く新交通システムの導入が実現してもらえると地域として助かる。

(委員 D) 小山市まちづくり総合交通戦略は、高岳引込線をメインに検討しているわけではなく、まちづくりと交通政策を考えるにあたり、鉄軌道を有効活用できる場所はどこかということを考え、高岳引込線に行きついたらと考える。高齢化社会のなかで移動の足を確保することや住んで良かったと思う住民を増やしていくことを考えていくべき。どんな結果が出るかより、議論を積み重ねていくことが大事であり、それが新しいまちづくりにつながると考える。

(委員 E) 一年間でここまで進められたのは異例だと感じる。まちづくりと交通戦略を継続して取り組んでほしい。

(委員 F) 私の住む地区では、自治会の役員会で話したりしたが、皆の期待が大きかった。同時に、すぐ脇を電車が走るになると、騒音やプライバシーの問題を心配する意見も出てきた。一筋縄にはいかないと感じた。いろんな障害を越えて、電車が通るよいなど共感してもらうには、小山市全体の魅力や発展に貢献することや、この地区に住んでよかったと思うきっかにはしていくことが大事である。実現化に向けては、いろいろな人のアイデアが必要なので、今後は広くアイデアを募っていきたい。小山高専の学生などの若者からお年寄りまで、様々なアイデアをとり入れて、まちの魅力向上につながるように皆で考えていきたい。

(委員 G) 私の住む地区は、市街化調整区域であり、高齢化が進み労働力が減少し、農業従事者が農地をはなれている現状である。夢のない年寄りが多い。何十年前から夢見ていた高岳引込線に電車が走ることになれば、希望が持てる。耕作放棄地が増えているが、緑豊かでのんびりと暮らせる地域であるし、人口増加も期待できると考えている。

(委員長) バス等の地域公共交通については割り合い住民参加のモデルがあるが、軌道系の新交通システムの住民参加モデルについては議論することや課題がたくさんある。交通戦略のモデル事業として、市民やまちづくりと連携した新しい小山方式をつくってけるとよい。検討の進め方や組織づくりのつくりかた自体についても、話し合いながら決めていきたい。

(委員 H) 諸手をあげて新交通システムの導入に賛成というわけにはいかない。交通戦略策定にあたり、最初は LRT 導入基本計画策定という話しが議会であった。来年、800 万をかけて計画を作る必要があるのか。小山市内の公共施設の更新に今後 40 年で 3,500 億円かかると議会の特別委員会で示された。新交通システムはあったほうがよいと思うが、今後は今ある公共サービスの質を落とさず、子どもたちに継承していただけるかが重要。概算費用が見えない中での検討は、どうなのかという気持ちがある。見直しも考えられる事業であり、バスの方が便利だと思う。小山駅から高岳引込線の終点までの区間でどのくらい利用されるか、検討してほしい。来年度以降、どのくらいの需要があるのか、市民アンケートも実施してもらい、その中で実施の是非を早期に判断をしてほしい。

(委員 I) コミュニティの形成やまちの活性化につながるよう、前向きに新交通システムの導入について検討していきたい。検討組織の継続を希望する。

(委員 J) まちの活性化や中心市街地の活性化に向けて新交通システムに期待するところが大きい。いつまで車を運転できるか不安を抱えている。また、新交通システムはまちのシンボルになり、地元の誇りにもなる。まち全体の公共交通の連携や役割分担の問題もあるが、よりよい方向で検討されるとよい。

(委員 K) 当社はコミュニティバスの東口循環線を担当しており、新市民病院の開院に合わせた新たな路線の拡張を検討している。今後も主にバス路線を中心に小山市のまちづくり発展に貢献していきたい。

(委員 L) 地域の皆様の理解があって企業活動ができる。地域の意向に沿えるように今後も取り組んでいきたい。

(委員 M) 高齢者の代表として参加させていただき感謝申し上げます。私は富山出身であり、生まれた時から電車に慣れ親しんでいる。今は車社会だが、将来は車と電車の両方を便利に利用できるとよい。

(委員 N) 地域の皆様のために、高岳引込線を活用してほしい。現在は軌道敷の草刈り程度の費用しかかかってないが、今後は軌道そのものの補修等も必要になると思うので、皆様と議論していきたい。

(オブザーバー O) 交通戦略のキーワードがコンパクトとネットワーク、暮らしやすいまちということで、今回の交通戦略は高岳引込線だけでなく、公共交通をまちづくりと一体的に考えられており、すばらしいと感じた。さらに議論が進展するとよい。

(オブザーバー P) 4回にわたる議論を通じて交通戦略の素案が示されたが、交通とまちづくりを総合的に戦略的に進めるということで、今後も住民の意見を聞いて反映してもらえばと思う。国としても、補助金等の活用を通じて今後も小山市の取組みを支援していきたい。

(オブザーバー Q) 様々な立場から意見が出され活発な議論がなされておりすばらしい。主役は住民であり、行政や学識経験者と一緒に知恵を出しあってほしい。公共交通は線ではなく面となり初めて効果が発現する。ネットワーク性などの観点からも議論を進めていただければと思う。

(委員 R) 公共交通が変われば交通の流れもかわる。交通事故対策も両輪で考えていただければと思う。

(委員長) まち全体の公共交通や軌道系の交通システムを議論するとき、市民の代表をどう考えればよいか大きな問題である。沿線住民以外の方々から様々なアイデアを集めていくために何が必要かを考えてほしい。このプロジェクトの検討に対して市民の代表性をどのように確保していくのか、小山方式に期待したい。

公共交通の手段は、人口規模 100 万以上で地下鉄、50 万人以上で新交通の導入が可能など、人口規模で判断しているのが実情である。しかし、地域活性化などの多面的な効果があり、地域の既存ストックをどう使って特色を出していけるか。人口規模だけでなく、こういう地域の条件があるからこの交通ネットワークを考えていくなどの判断が求められる。コンパクトシティはネットワークと拠点で実現されるものであり、そこでの軌道系の持つ力は大きい。拠点をどうつくるかというときに、長期的にみたときに J R も含めて、公共交通の特に軌道系の位置付けが重要になる。車を使わない社会で拠点をどうつくるのか、軌道系が大きなウェイトを持つ。長期的に仮に実施するとしても、採算が難しいということもあるかもしれないが、将来のまちの構造を考えると、チャレンジの部分もある。

(副委員長) 新交通システムは、メリットがある反面、金銭面などの課題があることもわかった。来年度、自治会やここに参加されていない商工や観光等の市の担当部局と対話しながら、小山工専のスタッフとともに、拠点づくりのアイデアや小山市のポテンシャルを掘り下げていきたい。

(委員 A) 本協議会は男ばかりであり、今後はお母さんや中学生などをメンバーに入れていくべき。将来を担う人若い人の意見を聞きたい。

(委員長) 委員会形式の検討の場とは別に、市民の意見を集める仕組みをつくることを考えていければよい。

(委員 F) 高岳引込線の電車に乗せてもらえれば議論が盛り上がると思う。

(委員 C) 以前イベントがあったがかなりの盛況で乗れなかった。

(委員 J) 小山市の何周年を記念して古川電工までトロッコ風列車を走らせた。

(委員長) 今後の交通実験をやる上での貴重な情報であり、事務局で調べて来年度に紹介してほしい。

(委員 H) イベント事業はよいが、恒常化した場合に利用者が乗るかどうかはわからない。委員会つくるのであれば、地元だけに固執しないよう、様々な視点や角度から発現できる人をメンバーに入れてほしい。

(委員長) 戦略の見方によっては、沿線には土地があるといえる。今後、土地利用などのシーズとニーズをどう組合せるかが課題。土地所有者や開発ニーズなどのポテンシャルを把握し見通しがつけられる人をどのように人選していけるかが重要である。

(委員 D) 以前、豊川先生がつくった図書館電車や野菜列車などの様々な車両を通勤・通学の合間に走らせるアイデアをシミュレーションした資料を見たが、皆に見せてはどうか。

(副委員長) 現在も三次元化のツールを使って資料を作成しているので、出来次第、見せたい。

(委員長) 今日いただいた意見を合わせて、交通戦略の素案として市長に答申したい。今後、パブリックコメントや議会を通じて最終案になる予定である。一年間ありがとうございました。

以上